



歌川國貞画

編

第

巻

金吾の巻

下の巻



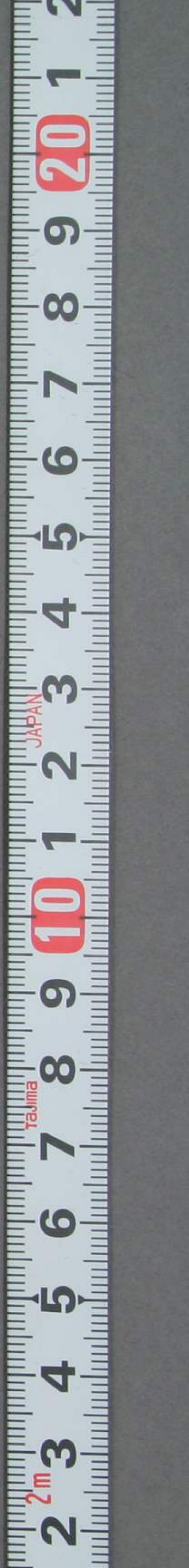
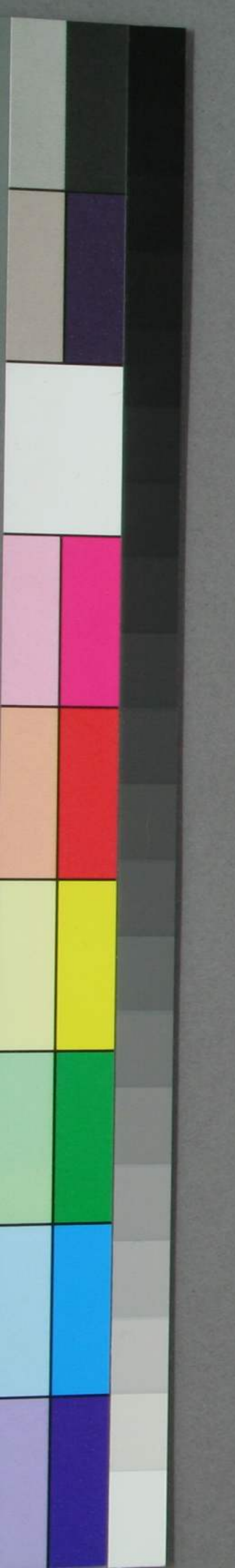
金吾

七巻
化

華

鶴亭秀賀作

巻の上



金花七變化

第四五六編

13
1182
2



卷之七
後代
家範
論

部小
号五〇二
册八合
2

13
1182
2



七変化

鶴亭秀賀作

巻の上

へ13特
1182
2

歌川國貞画



下の巻



主人花七象

四座人上

猶多秀笑化
梅蝶接回欠画

辛酉春新史

金松堂梓

金七変化
四海下の美
野多秀賀化
新川玉貞画

辛酉新史

金松堂梓



夫大内義弘の足利家有功の柱臣とれど一端の怒り来りて逆意を企
了得の名家も永く断絶做さんせし其子新及降を乞再家國を發せし
緯の諸書も顕然とれ人皆能知所あれど此本は名のと借初の作り設
譚あれ従来年月時日も不遭雖而強と妄談ありあはるを實説くも出
虚言あれ倘人有て空言くと問はるは正説くと問はるは答を西

萬延辛酉春發兌

鶴亭秀賀志





流石の明君

妖鬼の爲ふ

緑の布を

殺

大内家の忠臣
小林半之丞晴光



周防國山口の城主
大内権次多々良義弘

猫間彈正の

遺子誓者

緑之布

絶十三歳

を一期

大内之殿の
刀下の鬼と



○琴指南
古川
檢校



○大内家の侍臣
月形九四郎
賢吉



大座落... 酒氣... 年々... 相伴... 古... 胡...

大座落... 酒氣... 年々... 相伴... 古... 胡...



此の女は
 花の御衣
 着て居り
 其の髪は
 高く結
 びて居り
 髪簪は
 髪に挿
 して居り
 此の女は
 花の御衣
 を着て居
 り其の髪
 は高く結
 びて居り
 髪簪は髪
 に挿して
 居り

此の女は
 花の御衣
 を着て居
 り其の髪
 は高く結
 びて居り
 髪簪は髪
 に挿して
 居り



此の女は
 花の御衣
 を着て居
 り其の髪
 は高く結
 びて居り
 髪簪は髪
 に挿して
 居り

此の女は
 花の御衣
 を着て居
 り其の髪
 は高く結
 びて居り
 髪簪は髪
 に挿して
 居り





ついでに...
ちびら...
これら...
...

...

...



...

...

...



秀賀作國貞画









萬延二年辛酉新年新版目次

名表紙曾我物語

梅蝶樓國貞畫

佐崎名譽音武術譽

初 泉亭西畫作
二
三 同 画

世相錦繡文章

初 柳水亭種清作
二 芥川國郷画

蝶衛裙野草月雨

初 丹 柳煙亭種久作
二 一惠齋若龜畫

金花七變化

初 鶴亭秀賀作
二 梅蝶樓國貞畫
三

武田喜月 大頁百九

小頁二十銅
中頁四八銅

仙 一角 丸

地本 江西國横山町三二目
同屋 辻岡屋文助
金松堂





歌川國貞画
鶴亭秀賀作

七変化

編



巻の下

花

金

河屋梓

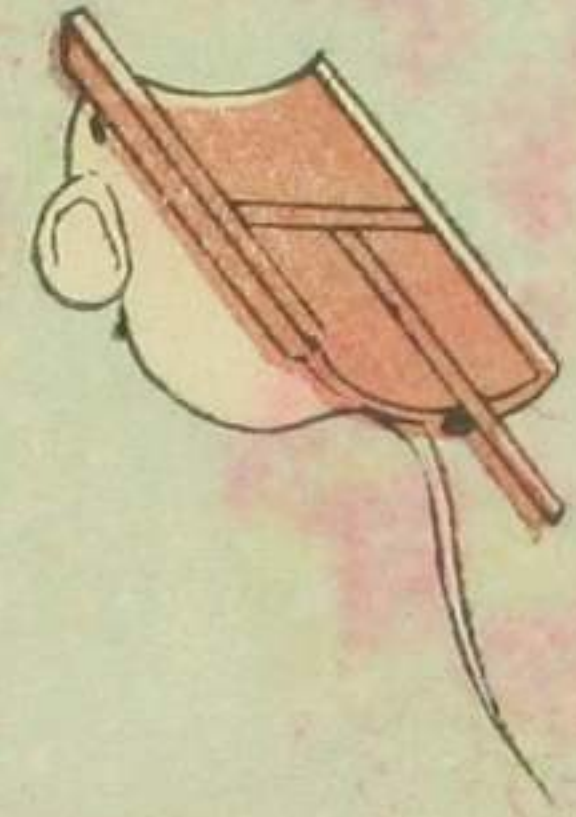


上の巻

歌川國貞画
鶴亭秀賀作



巻の下



金花七変化

五編上の巻

鶴亭

秀賀作

巻長五



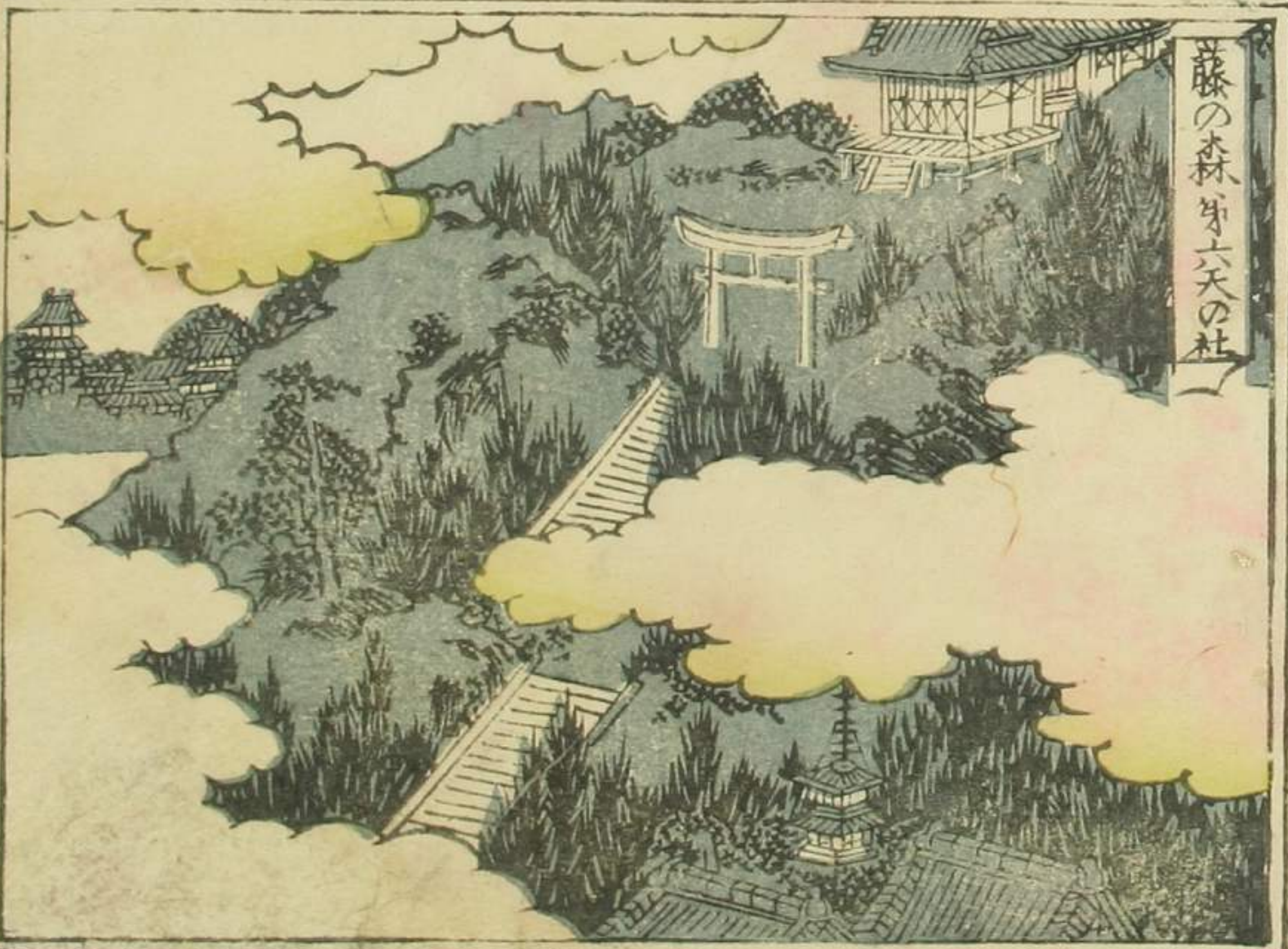
歌川

國貞画

金杉堂梓



緒言
 古人既小言る夏あり方蓋と以て
 正に圓器よ尤いと是あん方圓の
 湘語なる義理と解るなり今や稗
 官者流此主とせる處以視むに方
 成角字の小説と以て圓と仮名書れ
 桿史とす或ハ方る編屈人とも圓に
 浮世通と書作を杯珍ハカバと雖も夫ハ
 體と棄て骨と換筆頭の機關ハ故東
 方圓の湘語も綺りく看官以て佳
 境小入るむれが僕如きハ争うさる



藤の森第六天の社



萬世の幸酒
 新編

新編七変化
 五編下の巻
 新編の巻の巻
 新編の巻の巻

艶長



月形九四郎

賢吉



所為と能做さんやんの人直似猿智恵
 にヒツカキ散れ出放頭も下奥五編の
 稿脱一金華譚の七變化是ど方成
 蓋と以て圓き器小克ぶ如く隅々
 近ハ譚も不届明地の澤山有るれどハ
 は馴染の國貞が精心凝せし画せめて
 埋草たりとも御覽しよか
 あり願ふ

萬延二年酉五陽発兌

鶴亭秀賀記



油婦
其虫



山口の豪富
水口屋
古右衛門
古川檢校の
妾と
和哥浦
後水口屋の
隠妻と
故ありて
遊君
京外屋の
始め大磯

十景



悪僕 藤川長太



四六の下... 小森が月形... 女のもの... かねて... 知らず... 小森が月形... 女のもの... かねて... 知らず...

⊕ Sasa... 三つ... ねむら... ねむら...

⊕ 大奥... 大奥... 大奥... 大奥...



あつ... 月形... 月形... 月形... 月形...

Sasa... 三つ... ねむら... ねむら...

⊕ 大奥... 大奥... 大奥... 大奥...

あつ... 月形... 月形... 月形... 月形...

春のふ
 けりあり
 の市入のふ
 あるとを
 正ひたるふ
 江のいさ
 けりあり
 の市入のふ
 あるとを
 正ひたるふ
 江のいさ
 けりあり



春のふ
 けりあり
 の市入のふ
 あるとを
 正ひたるふ
 江のいさ
 けりあり

春のふ
 けりあり
 の市入のふ
 あるとを
 正ひたるふ
 江のいさ
 けりあり



春のふ
 けりあり
 の市入のふ
 あるとを
 正ひたるふ
 江のいさ
 けりあり



あきまはあつちからいかにむしむる
 ぬれいさふらふらあつちからいかにむしむる
 むらうらうらあつちからいかにむしむる
 ありあつちからいかにむしむる
 神解のいかにむしむる

あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる



あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる

あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる

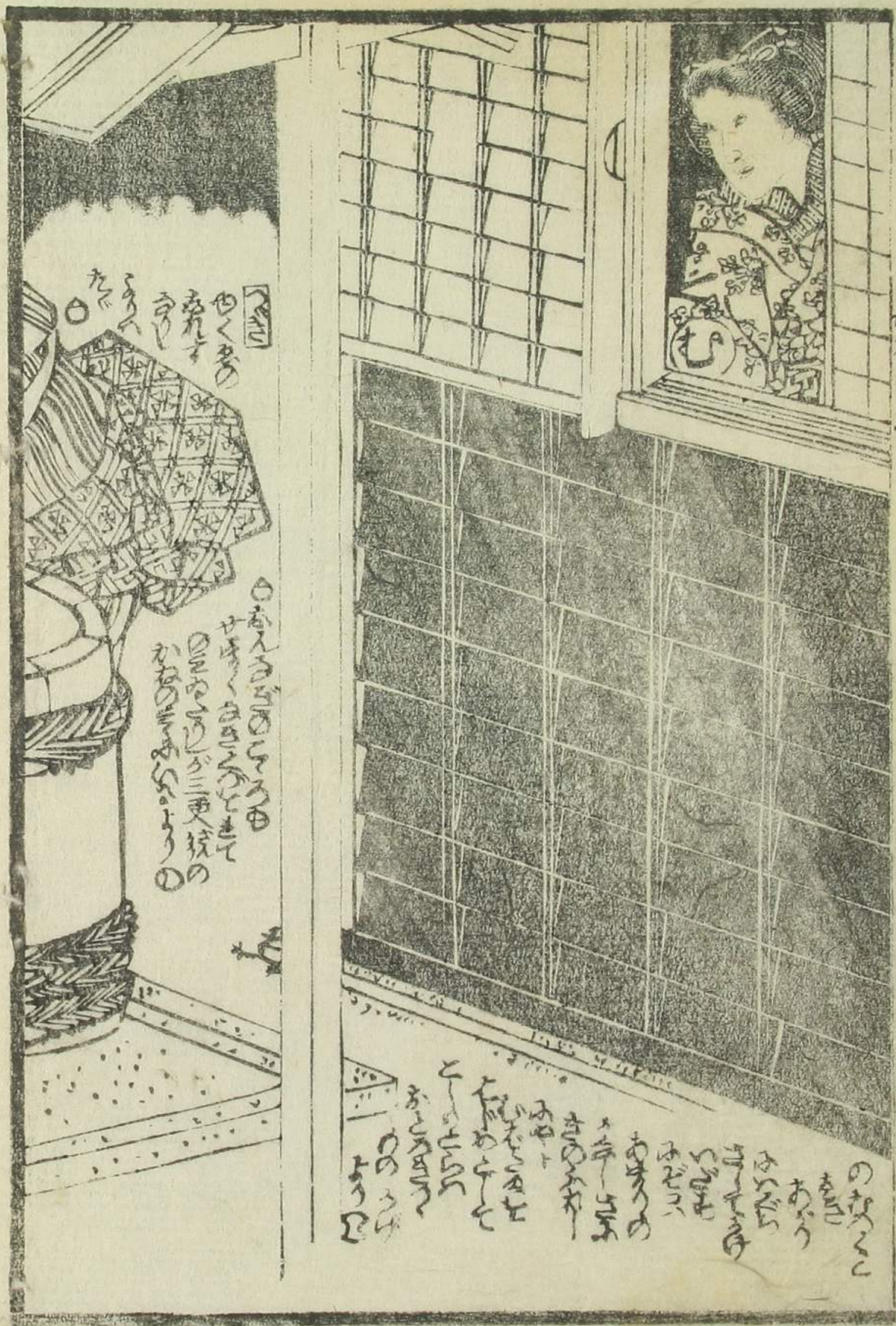
あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる



あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる
 あつちからいかにむしむる

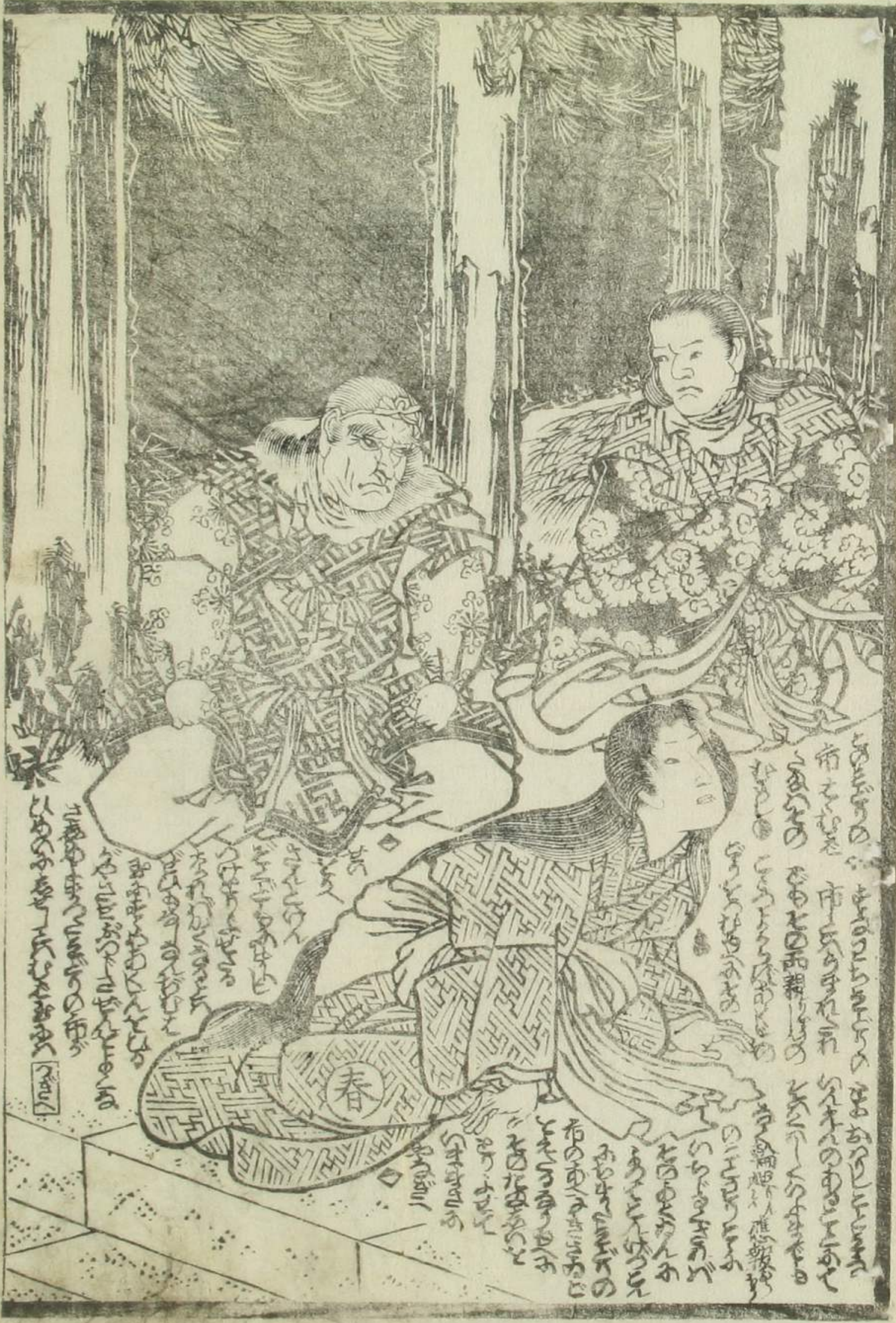


井戸に水を
 注ぐ女
 春の夜の
 静けさ
 月夜に
 井戸の
 水は
 清く
 澄み
 渡る
 春の
 気配
 感じ
 ます



春の夜
 静かな
 井戸の
 水は
 清く
 澄み
 渡る
 春の
 気配
 感じ
 ます

の女は
 あらう
 ひろくち
 手てま
 ひぞう
 あまの
 大平よ
 昔のあ
 いかん
 ねん
 のう
 ふう



春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語



春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語

春の物語



①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩



①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩

此の物語は
 昔の物語
 今も昔も
 変わらない
 物語の心
 昔の物語
 今も昔も
 変わらない
 物語の心

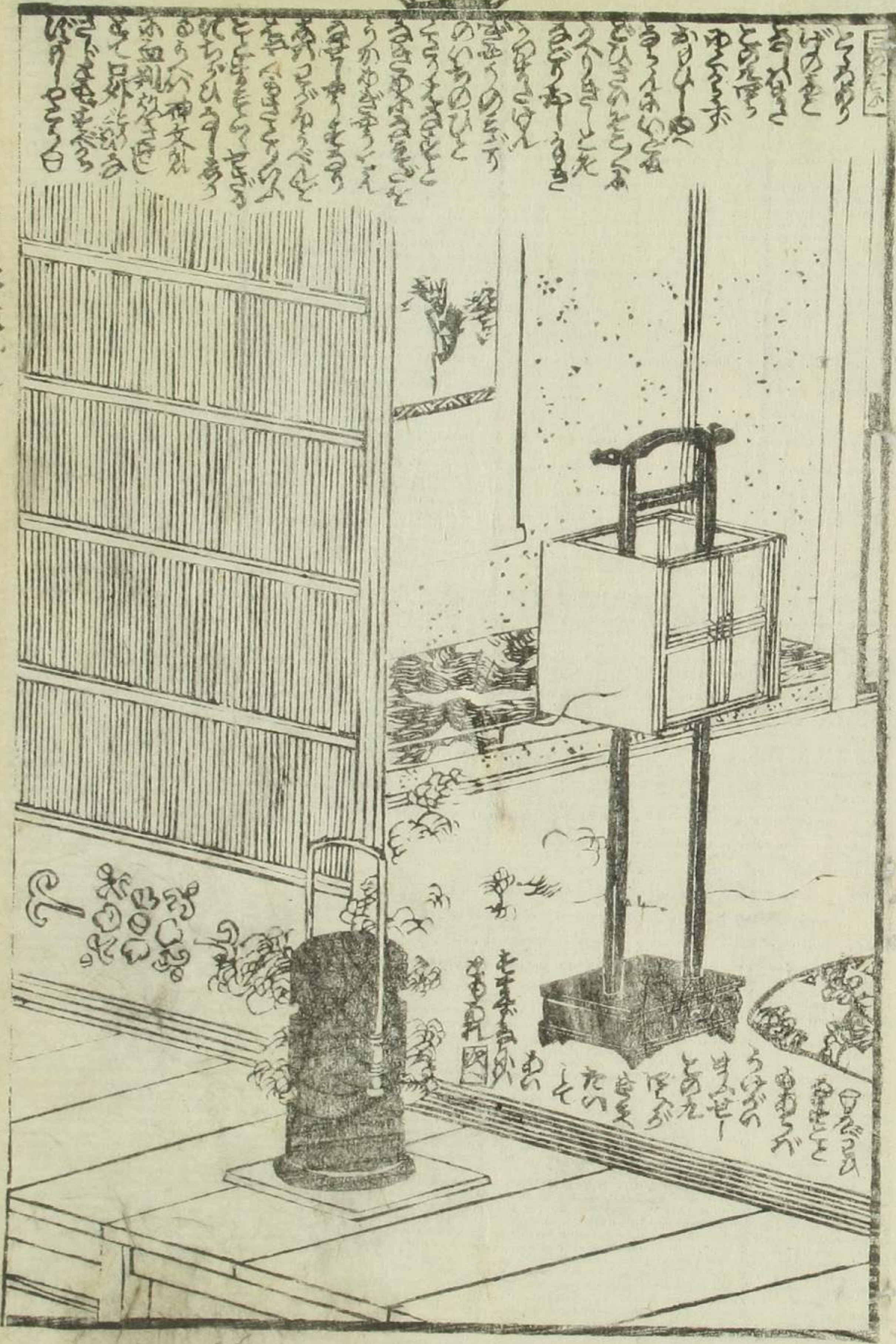


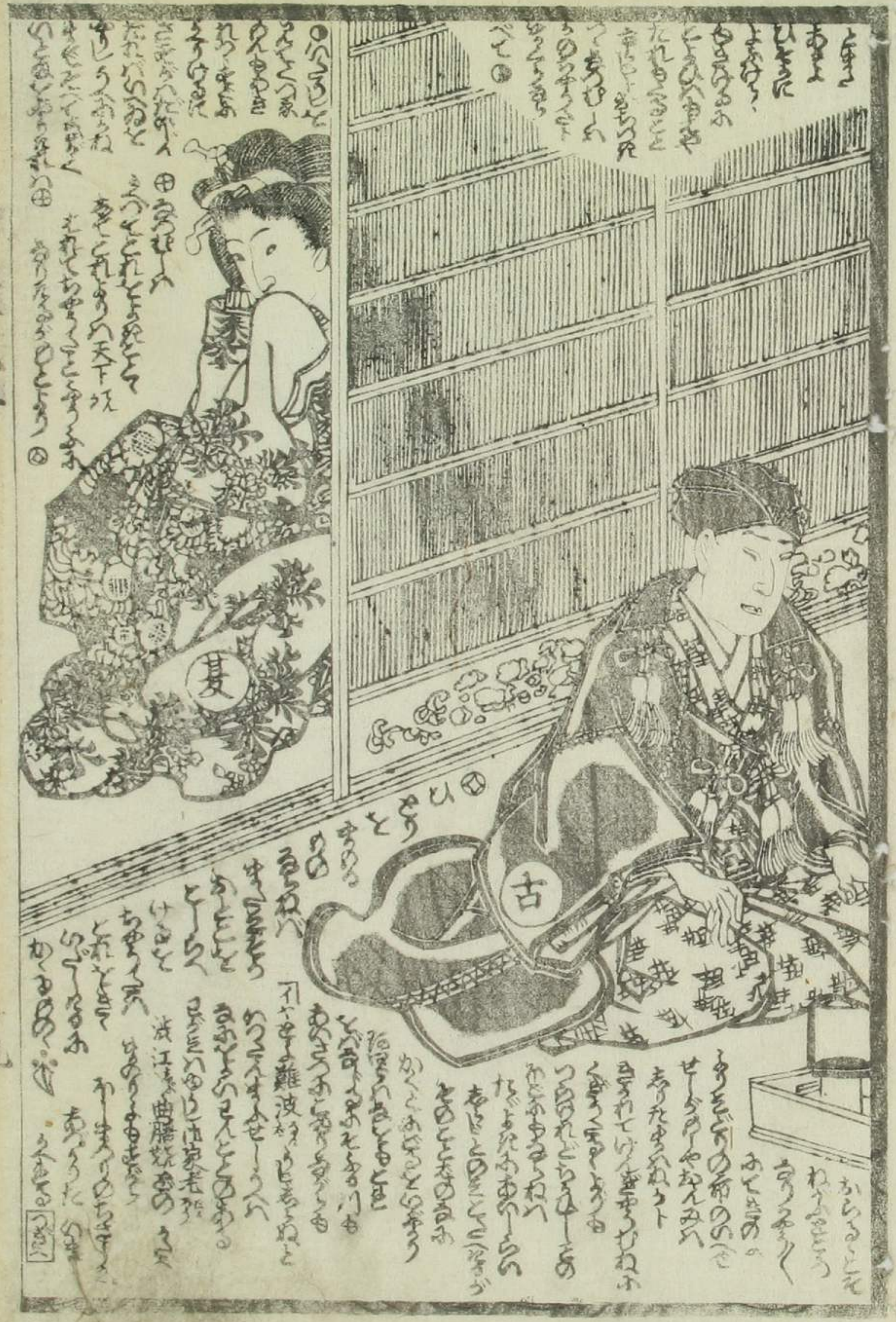
此の物語は
 昔の物語
 今も昔も
 変わらない
 物語の心

此の物語は
 昔の物語
 今も昔も
 変わらない
 物語の心

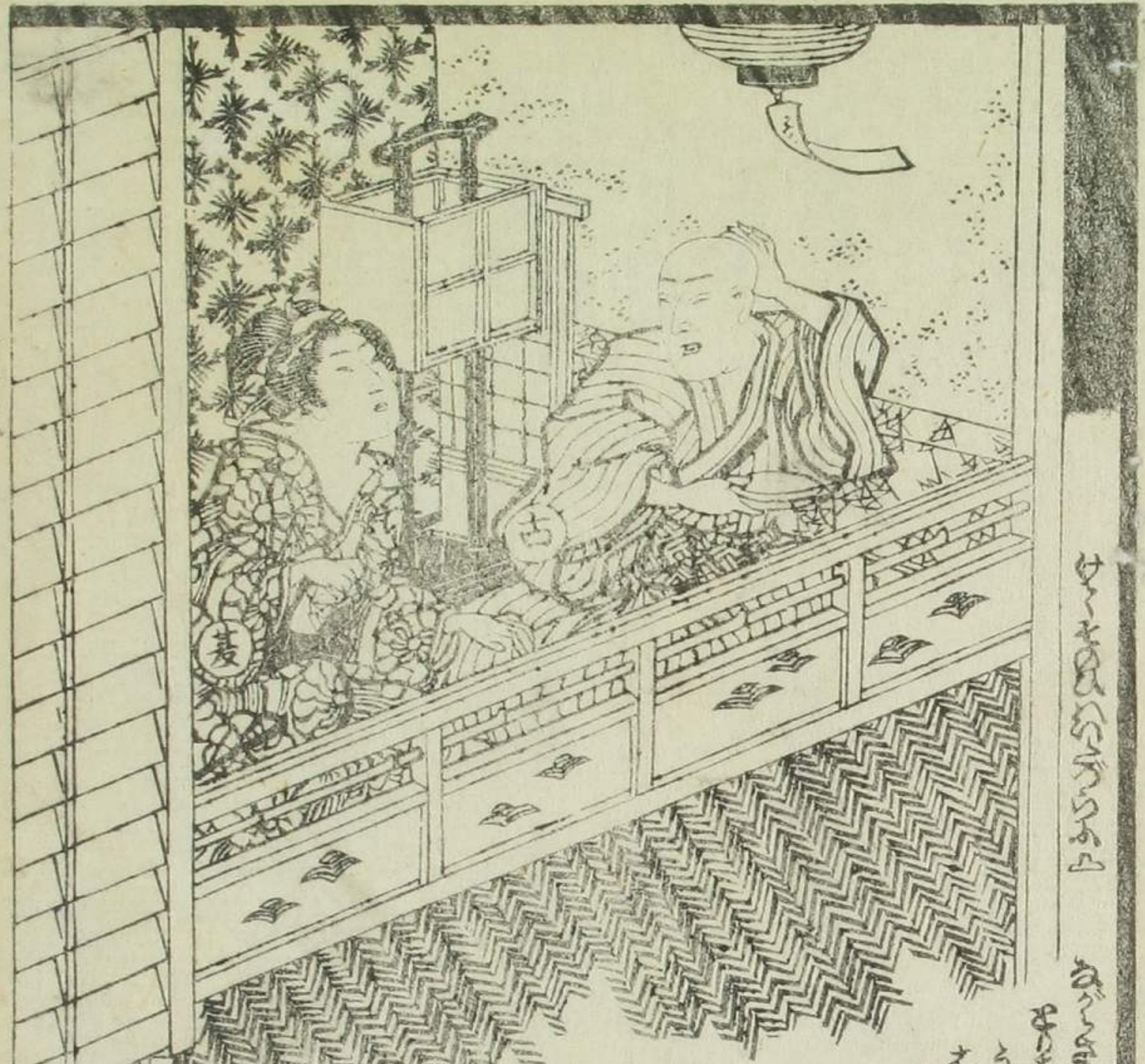


此の物語は
 昔の物語
 今も昔も
 変わらない
 物語の心





七
五



Handwritten text in a column below the illustration.

Handwritten text in a column below the illustration.

Handwritten text in a column below the illustration.

Main block of handwritten text below the illustration, consisting of several columns of characters.



七
五
七
五
七
五

Multiple columns of handwritten text interspersed around the illustration, likely providing commentary or a narrative.

次目版新年戊壬二久文

名表故曾我物語

三梅蝶樓國貞画

佐崎 名譽普武術譽

三同 画

三吾相綿續文章

二 柳水亭繪清作

蝶鶴裾野皇月雨

二 柳煙志種文作

金花七變化

三 梅蝶樓國貞画

歌川國貞画



鶴亭秀賀作

武田膏

六頁百九

仙 一角 丸

同屋 辻岡屋文助

地本 江兩國横山町三一

金松堂

文久二年戊辰春新板目錄

<p>義經入本櫻 三同</p> <p>作 地本 妙紙 問屋 過問屋 文助 堂</p>	<p>蝶衛鳥山漆 三同</p> <p>作 濡衣女 鳴神 一壽齋 國貞画</p>	<p>初紅葉小倉色紙 初同</p> <p>作 當利生一網 歌川國盛画</p>	<p>都鳥汀松若 三同</p> <p>画 縁綱詞花 一松齋 芳宗画</p>	<p>柳幕魁双紙 初為永凱長作 一壽齋國貞画</p> <p>金湖水并石川 初花並文京作 一勇齋國芳画</p>
--	---	--	---	--







新古今和歌集
一巻高國貞画

六編下

文楽揚



金花七

化

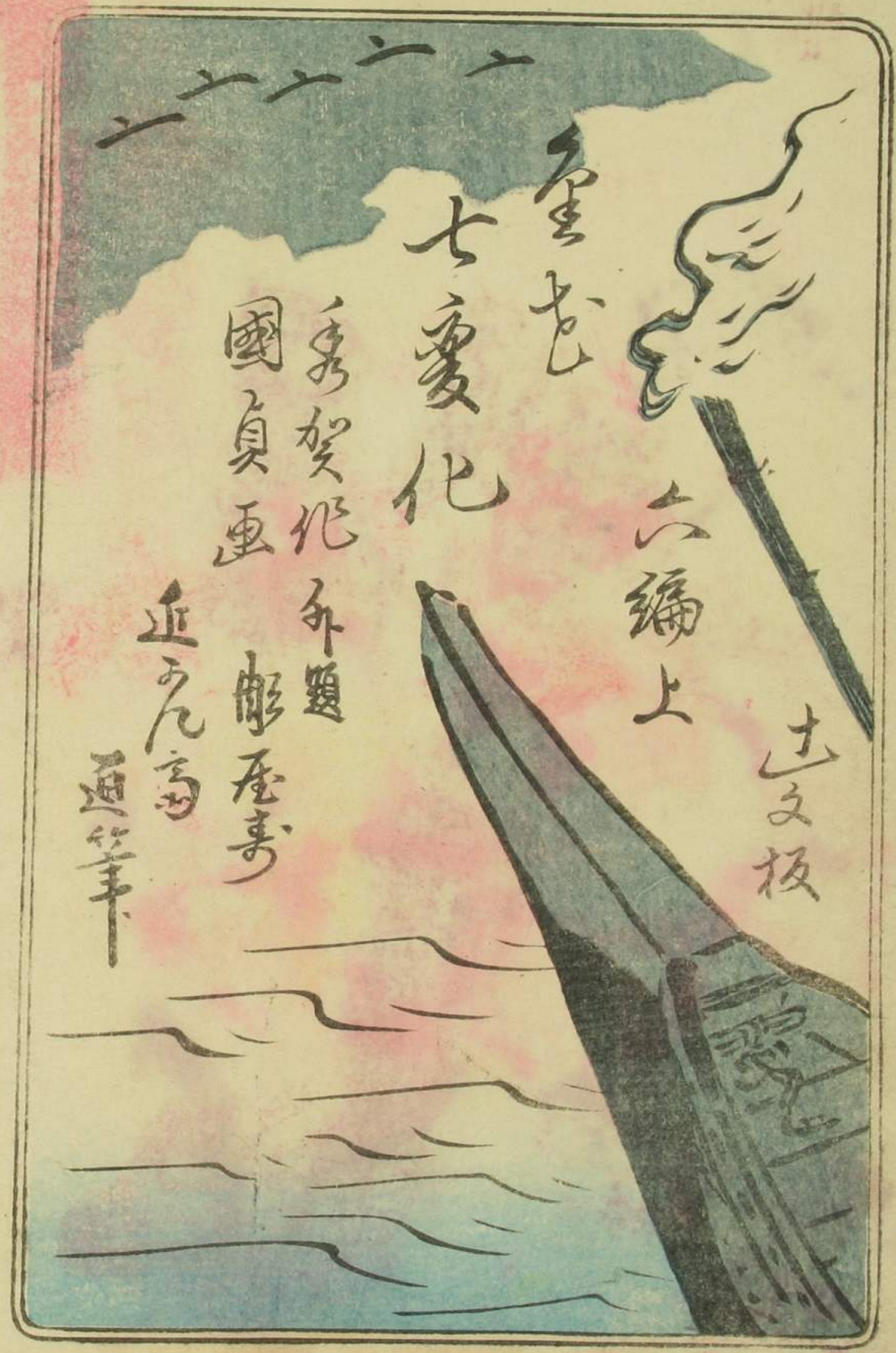
六編上



新古今和歌集
一巻高國貞画

六編下

辻文楽橋



六編上

辻文板

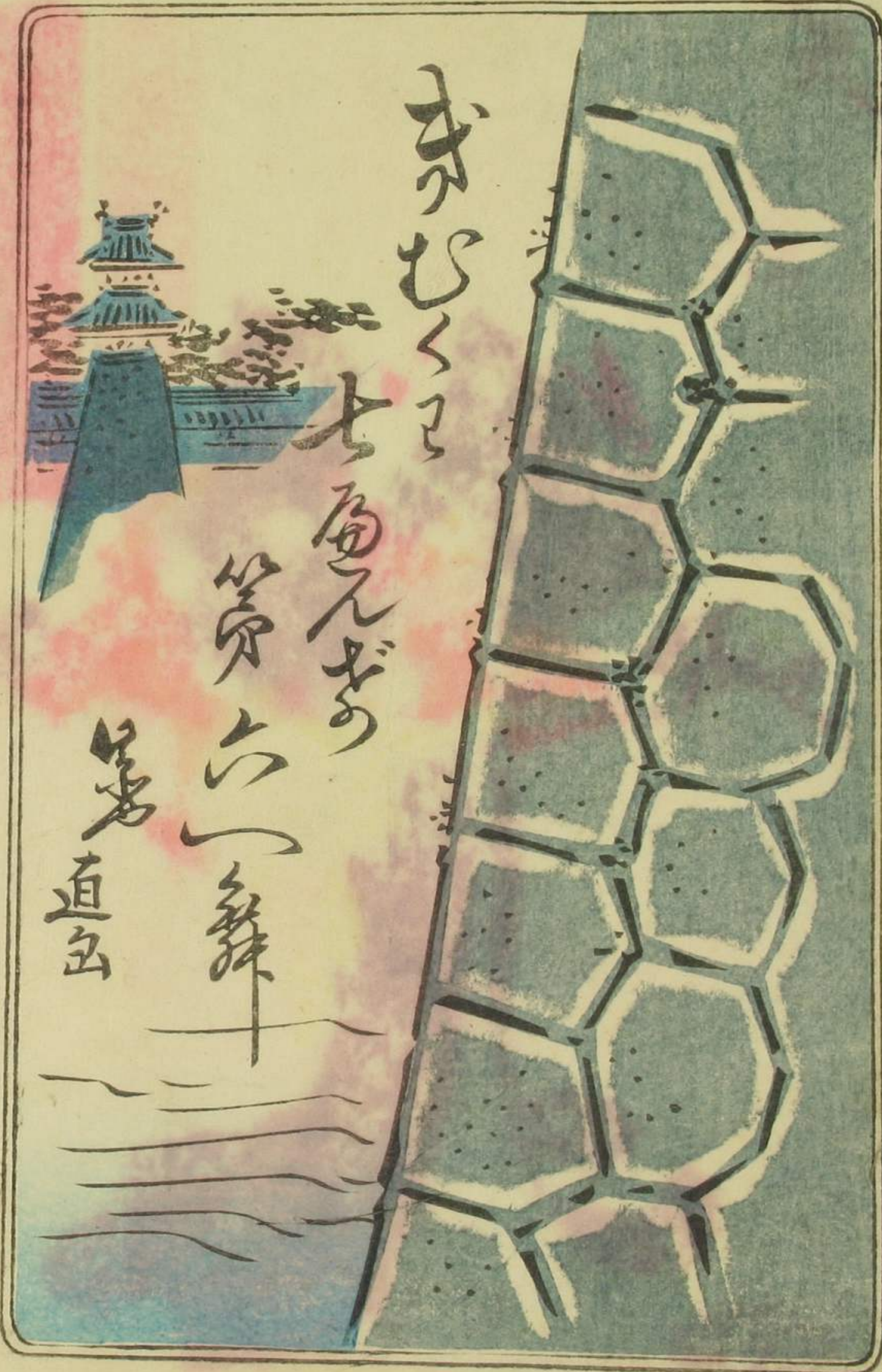
七変化

新古今和歌集
國貞画
彫屋
近江高

通筆

大集經だいしゅうきやう曰いひ甘露かんろ及及び毒どく樂らく皆みな人ひと中ちゆう舌した有あ甘露かんろ者者實じつ語ご
 妄わう語ご即すなはち為な毒どくとあり夫それ妄わう語ご者者毒どくなり共とも人心じんしん不な恨ん今いまや僕われ分わか止とど者者所ところの金かね
 實じつ語ご者者其その露ろあり共とも人心じんしん不な恨ん今いまや僕われ分わか止とど者者所ところの金かね
 華け猫ねこ譚たんハ實じつ語ごと妄わう語ごと當あた分ぶん不な調てうト勸かん善ぜん懲ちやう惡あくは
 意い加か味みト無な智ち惠ゑと一いつ杯はい不な剪せんト看かん宦くわん不な勸かんむ是こゝん
 一いつ字じ千せん金こんの主しゆ劑ざいたれハ童どう蒙もう見けん女にょ子しの持ち藥やくと做しよ意い
 自然じぜん五ご常じやう道だう不なみ忠ちゆう孝かう貞てい比ひ教かうと明めいむ杯はいと
 ハチ自じ製せいの味み噌そうの鹹かんけきと雷らい盆ぼん形けいの硯えん不な向かうひ摺すり
 子こ木き不な等とうき筆ふで採さいか加か廻まわしたる汁じゆあれば實じつの亦また記き
 緯ゐハ御ご兼けん知ちの上のうへ習しゆり做しよト聞き召めいと願ねんふ
 文ぶん久きう三さん五ご成じやう鴻かう釣てう弁べん兒に 鶴かく亭てい秀しゆ賀か記き

鶴亭秀賀記



おびんご
 七なな角かくんごの

第六一舞

直ちよく出しゆ



難波阿四郎

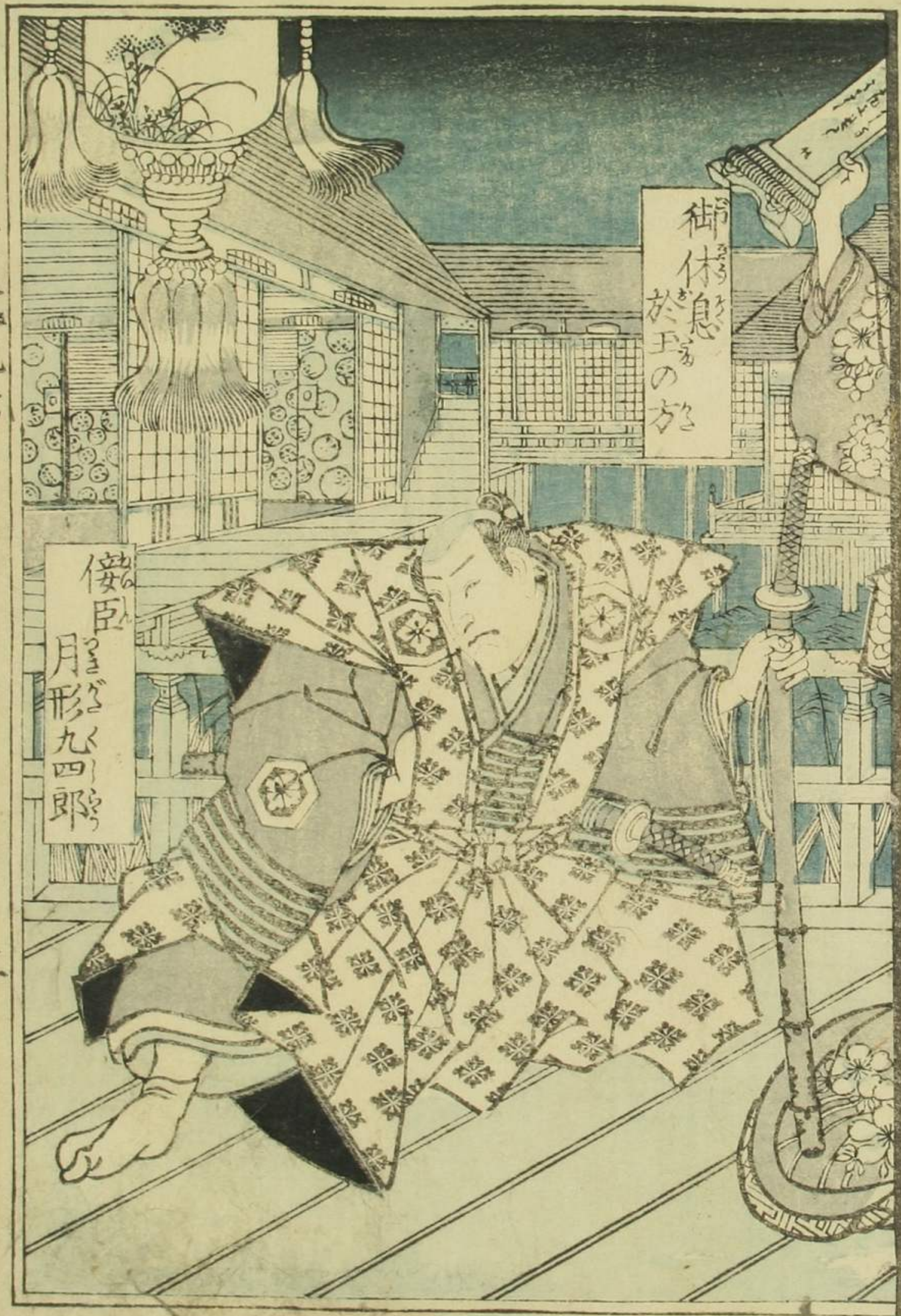
七度北六



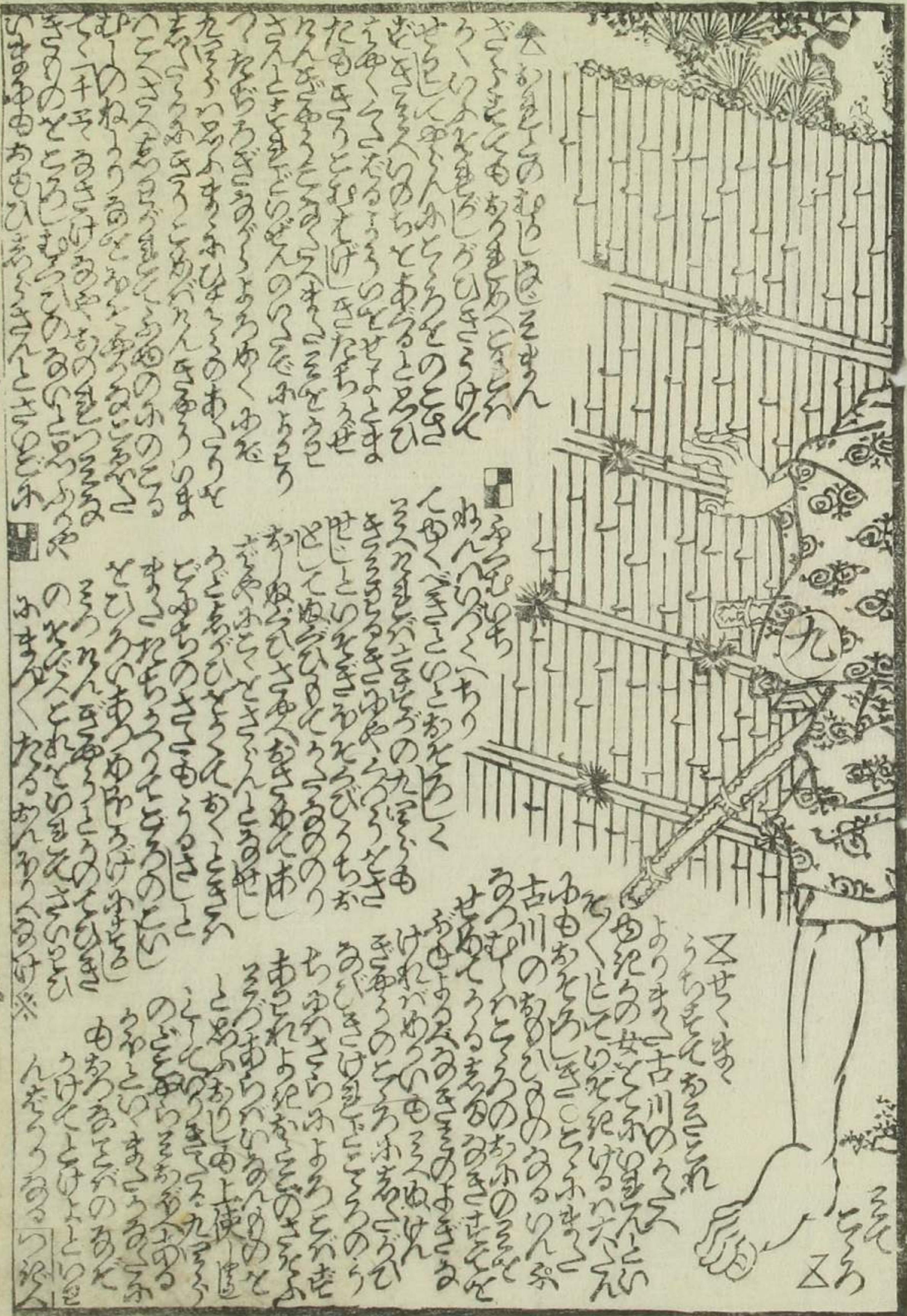
猫間家
の
後室
の
鳥羽王

乳母
春野

七度北六







△おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり

△おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり

△おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり

△おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり



△おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり

△おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり
 △おぼろのぼろいぼろい
 めいめいもあつちり
 らくらくあつちり





二五七六

あはれこのふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ

あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ

あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ



あはれこのふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ

あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ

あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ
 あはれふゆのあはれは三日のあはれよりふゆのあはれ





上の巻よ... 人のけいね...
 三日めのい...
 こゝろのい...
 けいね...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...

人のけいね...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...

國貞画



下の巻よ... 人のけいね...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...
 こゝろのい...

秀賀作



ひんびくする人々をみるか
あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか

あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか

あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか



あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか

あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか

あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか

あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか

あつたかあつたかあつたか
あつたかあつたかあつたか





あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら

あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら



あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら

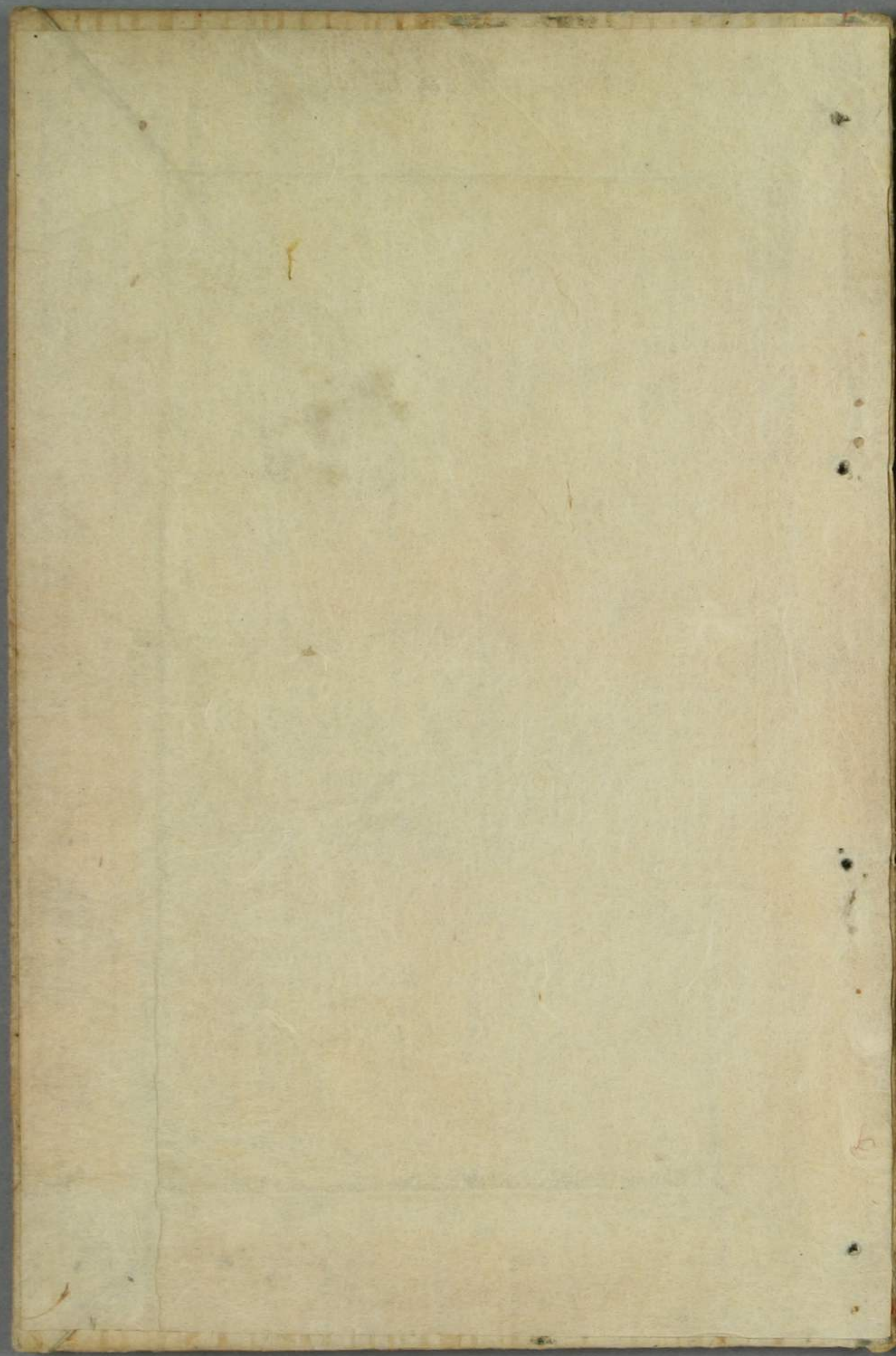
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら

あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら
あつめいさ
ひまゆき
いよき
らんら

又西 録目板新春年戌壬二久文

<p>義經今木櫻 三同 作 画</p>	<p>蝶衛龜山漆 三同 作 画</p>	<p>初紅葉小倉色紙 初同 作 画</p>	<p>都鳥汀松若 初同 作 画</p>	<p>柳幕魁双紙 初同 作 画</p>
<p>地本問屋辻岡屋文助 金 堂</p>	<p>濡衣女鳴神 三同 作 画</p>	<p>當利生一網 初同 作 画</p>	<p>縁綱詞花咲 初同 作 画</p>	<p>金洲水并石川 初同 作 画</p>





三才圖會